

総義歯の病理

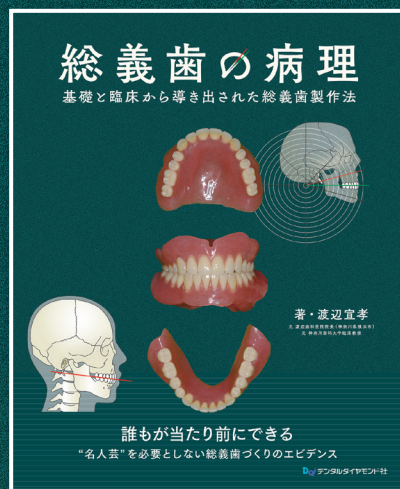
基礎と臨床から導き出された総義歯製作法

【著】渡辺 宣孝 (元 渡辺歯科医院院長 / 元 神奈川歯科大学臨床教授)

誰もが当たり前にできる
“名人芸”を必要としない総義歯づくりのエビデンス

病理学的な側面から総義歯の基本的な形の存在と、独自の咬合の考え方を確立して取り組んでこられた渡辺宣孝先生の総義歯臨床の集大成。有歯顎用トレーを用い、アルギン酸塩印象材による2回法印象によって連合印象採得を完成させる概形印象採得法など、その総義歯製作のステップは多くの臨床家とはだいぶ異なる。しかし、総義歯には“基本的な形”があり、完成した総義歯は相似形となるため、イノベーションの概念で読み進めていただきたいとの思いが込められている。ぜひ、総義歯づくりの座右の書としてご活用いただきたい。

詳しい情報は
こちら



AB判・96頁・オールカラー 本体7,200円+税

CONTENTS

第1章 総義歯製作における普遍的な知識とポイント

第2章 私の総義歯製作法

Step 01 概形印象 (1次印象)	Step 06 咬合採得	Step 11 重合
Step 02 作業用模型	Step 07 咬合器付着	Step 12 セット
Step 03 床外形決定	Step 08 人工歯排列	Step 13 セット時テストフード
Step 04 咬合床 (仮床) 製作	Step 09 試適	Step 14 メンテナンス
Step 05 ロウ堤製作	Step 10 精密印象 (2次印象) —咬座印象—	

第3章 症例供覧

- Case 01 基準となる咬合平面は下顎咬合平面、咬合平面の角度の変更は上顎咬合平面と証明してくれた症例
- Case 02 旧義歯人工歯部と製作した咬合床 (仮床) を連結して義歯製作を行い、顎位が整った症例
- Case 03 旧義歯の人工歯部と床を連結して義歯製作を行い、顎位を整えた症例
- Case 04 連結人工歯を使用して咬合採得を行った症例

推薦のことば

歯突起…。なぜ第二頸椎には、口腔でもないのに“歯突起”という名称の突起があるのでしょうか。宣孝先生は、「咬合平面は第二頸椎歯突起に向かい、第二頸椎歯突起が生理的下顎運動の中心点となる (書籍抜粋)」としています。グゼーの理想咬合やU字型歯列弓における咬合平面の設定など、生理的下顎位をポイントとした総義歯学を、組織学的形態学を基盤とする病理学的観点で紐解きます。総義歯臨床に活かせる内容が満載なこの1冊、必見です。

宣孝先生を師匠と敬愛する前畑 香